

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970400566		
法人名	医療法人 健和会		
事業所名	グループホームふれあい天理		
所在地	天理市中之庄町531		
自己評価作成日	平成29年7月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア		
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号		
訪問調査日	平成29年7月28日	評価結果決定日	平成29年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふれあいの里の一角にある2階建ての建物で、周りは施設と竹藪に囲まれている為、地域の方との交流は中々難しい所はありますが、交通量は少なく散歩をする環境には恵まれております。お天気の良い日は外に出て日光浴をしています。事業の開始から12年が経ち開所当時からいらっしゃる方もおられます。入居の際に車椅子で来られた方もシルバーカーを使い、一歩でも二歩でもご自分で歩いて頂き、手を出し過ぎない介護を心掛け、出来たことを共に喜べる介護を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな自然に囲まれたホームで、周囲には同系列の病院や福祉施設が複数あります。施設間の交流や連携も日常的に行われている為、入居者や家族の安心感にもつながっていることでしょう。家庭的な雰囲気の中、ゆったりと穏やかに過ごされている入居者の笑顔が印象的で、職員の言葉かけもさりげなく優しいものでした。自立支援にも力を入れており、少しでも歩く能力が残っている方は安易に車いすに頼らず、職員2名でゆったりと歩行介助を行っていました。また、記録や書類も十分整備されており、良質なサービスを提供されていることが確認できました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふれあいの里の理念を朝礼時に職員で唱和し、それに基づいた関わりが出来るよう努めています。1)入居者様中心の医療・看護・介護 2)地域社会への貢献 3)研究心と向上心を持つ 4)和を尊ぶ	玄関に理念が掲示されており、全職員がその内容を暗記しています。また、毎朝の朝礼時にも唱和し、理念に基づいた関わりを常に心掛けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	施設に囲まれているため、なかなか交流は難しいですが、ふれあいの里全体の夏祭りにて地域の方とおでん作りをしたり、秋祭りではホームの前でお神輿を担がせて頂いたり、地域の方が関わって下さっています。また、地域のお花見に参加させて頂き、今後は入居者様も一緒に参加出来ればと思っています。	民家と離れた立地条件であるため、日常的に地域と関わるということは出来ないものの、同法人の夏祭りは地域行事の一環となっています。また、各季節ごとに関わりを持つ機会を継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいの里そのものが地域に根付いた運営を行っており、認知症サポーター養成講座などの開催がありますが、事業所の取り組みはできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて日々の生活・活動を報告しグループホームでの生活を知って頂いていますが、状況報告で終わっています。今年度から新しい区長様が参加して下さい、地域への活用など検討していければと思っています。	2ヶ月に1回、地域区長、市職員、地域包括支援センター職員、入居家族、入居者、ホーム職員が参加し、状況報告を行っています。事前に詳細な状況報告書を作成し、会議が円滑で有意義なものとなるよう努力しています。	運営推進会議後の参加者の意見や要望の記録が滞っているため、今後活用できる取り組みを検討してみてください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の他にも天理市のグループホーム交流会に参加させて頂き、現状報告などお話をさせて頂いています。わからないことは気軽に相談させて頂きアドバイスを頂いています。	2ヶ月に1回、同市にある5つのグループホーム合同の交流会を行っており、市職員も参加しています。他のホームに見学に行ったり、情報の共有や連携にも努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ふれあいの里全体でステップアップ研修があり、身体拘束について学び意識しています。玄関の施錠は夜のみ行っていますが、日中は自由に出入り出来るよう支援しています。	同法人では新人職員は3日間、2年目と3年目は1日間の身体拘束を含めたステップアップ研修を行っています。また、玄関には程よい音のセンサーを設置し、安全を確保しながら自由に出入りが出来るように支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉での抑制などにも目を向け、話し合いや職員指導を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の際、権利擁護に関する制度の説明を受けています。また、ホームでも成年後見人を利用されている方が1名いらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間を以って説明を行い、納得して頂いていますが、1回だけの説明では不十分なこともあるかと思えます。面会時にはお困りのことなどないか伺っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内、法人内、外部の方を招いた第三者委員会を設置しており、館内に掲示しています。	アンケートや目安箱の設置はないものの、全ての入居者家族に電話連絡し、定期的な訪問の依頼と要望の確認を行っています。昨年、初めて家族会を開催し、家族間で悩みを共有する良い機会になったとの意見があったため、今後も年1回の開催を予定しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の職員会議、年2回の個人面談を行い、意見を聞く機会を設けています。普段からも気軽に話せる雰囲気を持って意見を聞くようにしています。	月2回の職員会議や年2回の管理職との面談を含め、職員の意見を聞く努力をしています。それにより職員間のチームワークも良好で、働きやすい職場環境となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能給の導入や運営目標を達成すると報奨金制度もあり、個々がやりがいを持って働ける環境を築いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ふれあいの里全体にステップアップ研修があり、参加できるよう勤務調整を行っています。また、外部研修にも積極的に参加する機会を提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ステップアップ研修の参加時に、他施設からの職員と情報交換など行っている。また、市内のグループホーム同士の交流会をもち、入居者様との行き来もあり、刺激を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様、家族様との面談の機会を大事にし、それぞれの意向を反映できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	意向をしっかりとお聞きできるよう努めています。家族様に代わって支援させて頂く思いであります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入居することがご本人にとって一番いいのかということをもまず考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を家族の一員のような思いで接していますが、線引きをしなれない所もあり難しいです。入居者様には教えられることが多々あり、入居者様に育てられていると思っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況を伝え家族様とのコミュニケーションを密にし、情報を共有しながら家族様に出来る事を考え、相互から支援できるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り支援させて頂いています。家族様のご要望を聞き、お墓参りや故郷に外出をして頂いたりしています。	車いす入浴者の岡山県までの里帰りに職員2名が同伴した経験があり、また家族との外食の付き添いや送迎なども要望に合わせて柔軟に行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係が出来ていて、時折衝突も見られますが、職員は中立の立場を守りながら関わっています。また、話し相手は少なくても個々の状態に配慮しながら尊重した関わりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ふれあいの里内での転居や入院の場合は面会に行かせて頂いたり、ご家族さまとお顔を合わせる事もあり、その後の様子などお聞きしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の性格や生活歴に配慮してその人らしい暮らしが出来るように努力しています。	入居者の意向を日頃の会話や仕草から読み取り、職員間で情報の共有に努めています。食べたいものや行きたい場所の確認も日常的に行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様から聴取していますが、面会の度に複数のご家族様からも情報を得るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居の際には、出来る事、話されたことなどを書きとめ職員が共有するようにし、状態の把握、職員間の連携に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の意向を基に目標を持ち、達成のための状態の観察に努めています。	ホーム独自の書式を利用し、日々の支援に反映できる計画書作りに努めています。計画書の同意に関しては郵送は行わず、面会時にじっくりと説明し同意を得ています。実施や評価の記録も十分行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体の記録と個人記録をとり、職員1人が3人の入居者様を担当し、状態の変化時、および定期的に再アセスメントを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様の状況を勘案して原則以外の支援も検討、実施していますが十分とは言えません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの導入は行っていますが、他の地域資源は活かせていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診の主治医と敷地内にある病院との連携ができています。	敷地内に同系列の病院があります。週2回の往診があり、2ヶ月に1回は診てもらえます。本人や家族の希望があれば外部病院への受診支援も行っています。歯科の往診もあり、安心して生活を送ることが可能となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、主治医との連携を密にし、早期受診を心がけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一法人の病院との連携を密にとっています。病院のカンファレンス時には参加させて頂き、状況把握をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に先の事も考えて頂けるように話しをしています。また、随時、医師や家族様と相談しながら意向を確認しています。	敷地内に同系列の病院や福祉施設があるため、入居家族はホーム内での終末期ケアに特にこだわっておられないようであるが、歩行が出来なくなっても希望があれば引き続きホームで暮らせるように支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や個々の職員に指導を行い、急変に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害委員会の設置があり、ふれあいの里全体での協力体制が出来ています。夜間想定をふまえ、年2回の訓練を行っています。	同法人に災害対策委員会があり、月1回は代表者が集まり災害時の協力体制に関する話し合いを行っています。夜間も想定した避難訓練を6月と12月に行っており、振り返りや反省の記録を次の訓練に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇については、ふれあいの里全体で取り組みを行っています。ふれあいの里の接遇標語を朝礼時に唱和し意識するようにしています。その人らしい暮らしが出来るよう努力しています。	同法人に接遇委員会があり、年に2回お互いの施設を周り、客観的な視点で言葉遣いや接し方等を確認しています。職員の声のトーンや口調も穏やかで、優しく自然な言葉かけがなされていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立支援を基本とし、こちらが誘導するのではなく、ご本人に考えて頂くよう、ご本人の言葉を聞けるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望が実現するように話し合いを行っています。その日の会話からアクティビティを見つける努力もしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回散髪屋さんに来て頂き、髪を整えてもらっています。毛染めが必要な方には、敷地内の施設の訪問美容サービスを利用して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、献立・食材調達・調理全てをグループホームで行っており、買い物や下ごしらえなど入居者様の出来る事は積極的に行って頂いています。	夕食を中心に盛り付けや下ごしらえ、食器洗い等を入居者と共に行っています。週1回、宅配で足りない食材の買い出しにも一緒に出掛けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、摂取量を知るために記録に残していません。栄養のバランスは献立立案時に考慮しています。水分は、なかなか摂って頂けないですが、コップ1杯は飲んで頂くよう最低摂取量が把握できるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを実施し状態の確認をしています。ご本人に出来る所までしてもらい、後に職員が補っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の誘導と随時のトイレ誘導を状態に合わせて行っています。	日頃から、定時・随時のトイレ誘導を含めさりげなく関わっており、本人の排泄等のサインを各職員が会議等で情報共有しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・食事・水分と個人に合わせた管理と薬についても主治医と検討しています。15時のお茶の時間にはおやつに加え、寒天を食べて頂き、排便を意識して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、ユニット毎に曜日を設定していません。時間帯も勤務時間に合わせた設定ですが、本人様の希望に沿い、ゆっくり入って頂けるよう配慮しています。	風呂場は清潔に管理され、週3回の入浴が確保できています。入居者の希望で一時間の入浴支援や、清拭、足浴、汚れた際の臨時のシャワー浴などの対応も柔軟に行われています。	入浴日が固定されているため、体調不良などの際に翌日に順延できない現状です。今後、本人の状況に合わせた臨機応変な入浴方法を検討されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のリズムがつけれるように配慮しながら、状態によって臥床を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1回ずつ手渡しで個々に合った服薬の援助を行っています。症状の変化の観察に努め、随時、主治医とも相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	状態に合わせて個々にあった関わりが出来るように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に行きたいと言われた時は、出来る限り対応させて頂いています。近隣への散歩や天気の良い日は玄関外に出て日光浴を日課としています。家族様と職員が連携して希望する所への支援も行っていますが、頻繁ではありません。	買い物や近隣への散歩など、本人が希望する時間に可能な限り合わせるよう努めています。今後は、家族と職員が連携した外出支援も積極的に行うように検討されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っておられる方が1名いらっしゃいますが管理はしていません。周辺でお買い物に行くところもない状況です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は要求があればかけて頂いています。また、ご兄弟からも気軽にお電話の対応はさせて頂いており、電話口に出て頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節によって飾り物を替え、廊下の奥には、季節の花や景色の写真を展示しており、季節感を感じてもらっています。においにも気を遣っており、気持ちよく生活して頂けるように努めています。	建物の随所に工夫が見られます。天井が高く、間接照明を利用し、手すりも景観を損なわない形態で設置されています。食堂にも入居者共同で作成された季節に見合ったちぎり絵などを展示し、居心地のよさを演出しています。廊下には、さりげなく一人になれる椅子なども置かれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座りテレビを観たり、自由に行き来できるように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の物品はカーテン以外は家族様に準備して頂いています。馴染みのある物を持ってこられたり、少し寂しい場合は、こちらから家族様にお声かけさせて頂いています。	カーテン以外は家族に馴染みの愛用品を持ってきてもらうよう配慮しています。職員の視点からもアドバイスし、居心地のよい居室となるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	他の入居者様との関係性などを考慮しながら自立支援に努めています。		